

発行者◆北九州福祉サービス株式会社
代表取締役社長 吉塚浩
住所◆〒802-0077
北九州市小倉北区馬場
1丁目3番21号
編集者◆お客様相談室 村上麻衣子
☎ ◆093-533-1294

きたふくだより

第275回 4月号



今月のヘルパー月間テーマ

「交通安全」

・外出時、経路の安全確認を行います。



おかげさまで創業25周年

北九州福祉サービス株式会社の設立は平成11年12月1日。そして、介護保険制度施行と同時である平成12年4月1日に事業を開始致しました。事業開始から25年、皆様に支えられながら25歳の誕生日を迎えることができました。

創業当初は、ヘルパー派遣を中心にケアプラン作成、介護保険外のサービスであるライフサポートと今後の介護人材の育成を図るための研修事業を行なっていました。

その後、より豊かな在宅生活を過ごしていただくために、デイサービスを市内4箇所に開設したほか、福祉用具、グループホーム、小規模多機能ホーム、訪問看護、障がい者相談支援の開設などを経て今日に至っています。

これまでの25年、企業理念であります「高齢者・障がい者の皆さまが『自立した健康で快適な日常生活』を営み続けることのできる『豊かな福祉サービス』を持つ社会づくりに貢献します。」を变えることなく、貫き続けて参りました。

そして、今後も貫き続け、高齢者や障がいをお持ちの方が在宅で“安らぎのある生活”を過ごしていただけますよう会社設立の原点を忘れずにスタッフ全員が真心のサービスを提供していく所存です。今後も引き続き、ご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



←スタッフが人文字に挑戦★“KITAFUKU(きたふく)”を表現! ...見えますか😊?



昨年の6月、創立25周年を前に“きたふくホームページ”をリニューアルいたしました。是非ご覧ください😊

きたふくホームページ掲載写真↑

生きかた上手

著者：日野原 重明(ひのはら しげあき) 1911年-2017年
医師・医学博士。聖路加国際病院名誉院長。

— 死は終わりではない —
「ありがとう」のことばで人生を
しめくりたいものです。



【老いてからの死は、苦しまない】

これまで私は数えきれないほどの患者さんを診療し、その病を治すことに力を注いできました。その日々のさなかにもまた、ゆうに4000人を超える患者さんを看取りました。

人のいのちを助けることが医学の使命であるとすれば、私は連戦連敗。負け戦を挑んできたようなものです。いのちを救ったつもりでいても、所詮、ほんの少し死を先送りしただけのこと。いずれは病なり事故で、一人残らず死んでいきます。

死にゆく患者さんを前にして、私はいつも医学の限界を知らされますが、そこに敗北感はありません。どんなに最先端の医療をもってしても、死を征服することはできません。いのちに対してますます謙虚になるよりほかありません。

患者さんは自らの死を通して、死がどういうものであるかを私に教えてくれました。無理な延命措置さえしなければ、老いてからの死はあまり苦しまず安らかであることも、患者さんの死から学びました。

死の瞬間はさぞかし苦しいのだろうと誰もが思うようですが、実際は、まだこの程度では死なないうらやましいというときに最期を迎えます。自分の見通しよりも2割くらい手前、8合目ですでに頂上だと知っておいてください。

きたふく本社の Instagramはこちら→

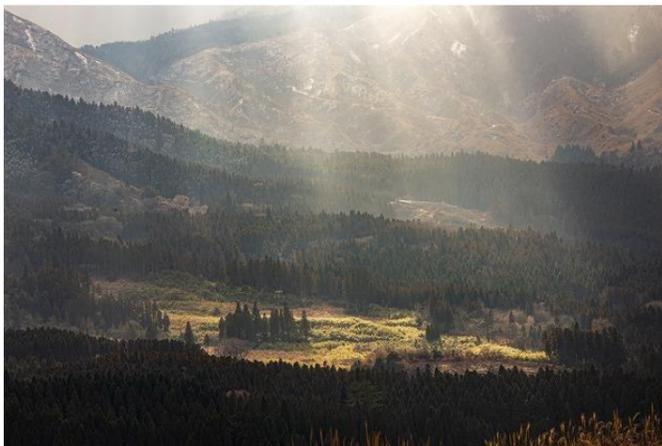


きたふく写真館

写真がとっても得意な当社の職員さんの写真をご紹介します



↑つらら(平尾台)



↑大地のスポットライト(阿蘇)

簡単ヘルパーレシピ

【お豆腐で作る簡単お餅】



- ◆材料◆
- ・絹ごし豆腐 150g
- ・砂糖 大さじ1
- ・片栗粉 大さじ2.5
- ・きな粉
- ・黒みつ/はちみつ



YouTube 公開中!

- ①耐熱ボウルに絹豆腐150gを入れ、なめらかになるまでよく混ぜる
- ②砂糖を入れ混ぜる
- ③片栗粉を入れダマにならないようによく混ぜる
- ④ラップを**せずに**1分(600w)チンする
- ⑤よく混ぜる
- ⑥ふんわりラップをして1分30秒(600w)チンする
- ⑦モチモチになっていることを確認してさらに混ぜる
- ⑧食べやすい大きさにして、きな粉にからめる。黒みつ、はちみつはお好みで★

気まぐれ編集後記

-25周年-



25周年を迎えたきたふく。同僚たちと「25年前は何をしてた？」という話題に…。

「創業当時からきたふくで働いてた」というスタッフもいれば「10才! ブランコ遊びしてたかな~?」というスタッフも…!! 様々な年代のスタッフが仲良く(?) 働くことのできるのがきたふくの良いところなのです(*^^*) 20周年の話をしてたのがついこの間のようで、時の流れは本当に「アツ」と言う間です。

きっと30周年の時も同じことを言うんだらうなあ…とっておりますが… 皆様は25年前、何をしておりましたか? 時の流れに身をまかせ…(^_^)たまには立ち止まり、毎日を大切に過ごしたいですね。



若松区にお住まいの
津田瑛子様が100歳を迎えられました！
誠にありがとうございます。

↓田中ヘルパー



↑お嫁さん

↑政本リーダー



↓息子さん [100歳を迎えて]

長生きの秘訣は“陽気で笑顔”を心掛けていること。
そしたら「あっという間に100歳になった」と話す津田様。100歳に特別な
思いを馳せることなく、いつも通りの笑顔☺で100歳を迎えられました。

[ヘルパーの顔を見たら安心します]

ヘルパーは、掃除のお手伝いで訪問します。「ヘルパーは良い方ですよ。気遣ってくれるし、顔を見たら安心する存在。」と嬉しい言葉をいただきました。ユーモアがあり、いつも笑顔で「ありがとう」と言ってくださる津田様。週に1度訪問するヘルパーとの会話も楽しみにしてくださっているそうです。

津田様は幼い頃に東京麹町に住んでおられ、英仏話幼稚園に通われていたそうです。そんなこともあるからか、計画書にサインをお願いすると「英語で書くわ」とスラスラとローマ字で書かれたり、英語の歌を歌われたりすることもあります。(当時の住所を番地まで覚えていらっしゃいます👀！)

[ママ(お嫁さん)がいるから生活出来ている]

すぐ近くに息子さんご夫婦が住まれており、取材当日は息子さんとお嫁さんが同席してくださいました。普段、お嫁さんのことを“ママ”と呼ばれているそうで「ママがいるから生活出来ています」と感謝の言葉が…お嫁さんはカロリー計算をして食事を作られ、しっかり食事を取るように促されています。そして、毎日何度も訪問して様子を見られ、特に転倒には気を付けられているそうです。



若き日の津田様→
とっても素敵です♡

[ご家族の想い]

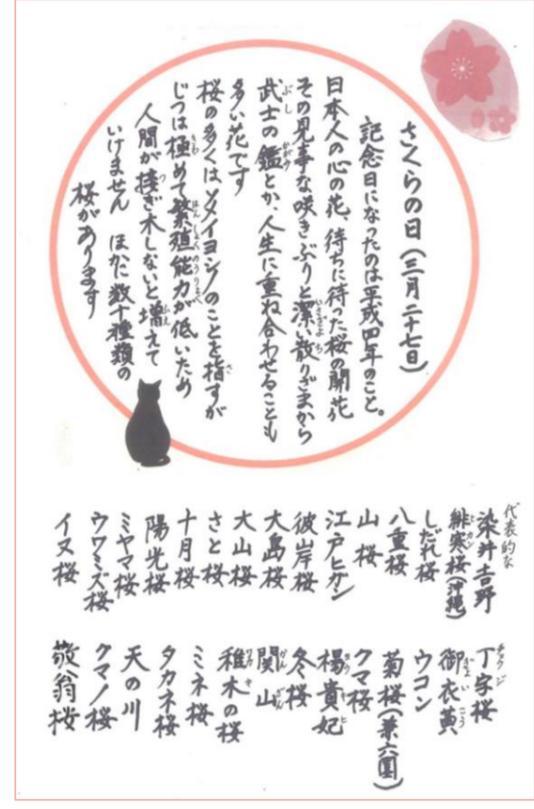
「100歳まで元気でいてくれて良かった」と、息子さんご夫妻。息子さんは夜間に訪問してサポートされ、一人暮らしの津田様を気にかけてられています。「子供のころ、母の躰は厳しかったですよ。宿題をしていないと怒られたり…」と、昔を思い出しながら懐かしそうに話してくださいました。息子さん達はいつか津田様と同居したいと考えられているようですが、何より“これからも元気なままで過ごしてほしい”と願っておられます。ご家族の支えもあり100歳を迎えられた津田様。これからも変わらずお過ごしいただけるよう祈念しております。



馬の水墨画
馬を初めて描いた画。くるんと丸くなっているお尻を描くのが難しかったそうです。

(取材：戸畑 田原所長・政本リーダー/紙面構成：村上)

八幡西区
花田シゲ子様

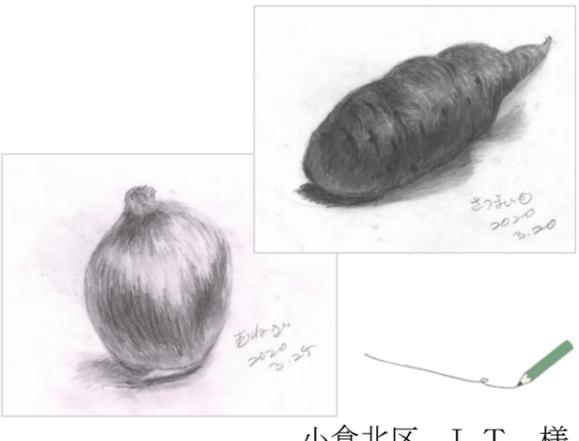


小倉北区
石村加代子様



八幡西区 宮原次枝様

門司区
F
様



小倉北区 I.T 様

小倉南区
向山千代孝様

愛犬と 桜の下で 写真撮り
あの坂も この坂道も 桜咲く
由布院や 花馬車乗りし 手振る母
待ち合わせ 四月の雨に 服濡らす
美保関 夕焼染まる 夫婦岩
ムツゴロウ 有明海に 出できたり
卯月の夜 腹にしみたし すき焼きか

戸畑区
中菌チエ様

冬の日や 油断大敵 落とし穴
病んでみて 知る事多き 冬の日々
死者生者 集い賑わう 冬の夢
雪が舞う 思わぬ世界 さまよった
寒くても 負けてはならぬ 負けられぬ
冬の日や 69才と 言い通す
元氣良く 我が家で過ごし 春を待つ